

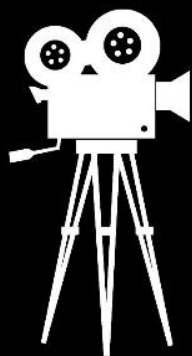
ゆとろぎ想ひ出の映画



哀愁

WATERLOO BRIDGE

1949年公開作品



戦後、昭和24年に公開され大ヒットを記録した恋愛映画の傑作です。ロンドンのウォータール橋で運命の出会いをした男と女。全編に流れる「別れのワルツ」の名曲は今聞いても色あせることなく私たちの心にハッキリと残っています。主演は「風と共に去りぬ」のヴィヴィアン・リーと二枚目スター ロバート・テイラーです。世界で愛され女性達の涙をさそったこの作品。皆さんぜひご覧下さい。

10月4日(土) 開場 17:30
開演 18:00

入場無料(先着250名様)

羽村市生涯学習センターゆとろぎ小ホール

お問合せ:羽村市生涯学習センターゆとろぎ 042-570-0707 (月曜休館)

主催:羽村市教育委員会 企画運営:ゆとろぎ協働事業運営市民の会

ゆとろぎ「想ひ出の映画鑑」

★ 上映作品「哀愁」(1949年日本公開作品)

★ スタッフ／キャスト

監督：マービン・ルロイ

脚本：S・N・バーマン／ハンス・ラモウ／ジョージ・フローシェル

撮影：ジョゼス・ルッテンバーグ

音楽：ハーバート・ストサート

出演：ヴィヴィアン・リー／ロバート・テイラー／マリア・オースベンスカヤ



★ 解説

ハリウッドの代表的恋愛映画の傑作として世界的に愛されている作品です。

ロンドンを舞台に西部戦線に向かう将校とバレエの踊り子が偶然ウォータール橋で空襲に遭い恋愛に発展してゆく姿を描いています。全編に流れる「別れのワルツ」の曲のロマンティックと悲劇を象徴し素晴らしい効果を生み出しています。

原作は何度もピュリッツァー賞に輝いたロバート・E・シャーウッドの舞台劇の映画作です。また、この作品は実際にロンドンの橋の上で将来の結婚を考えデートしていた二人の頭上で破裂した爆弾により亡くなった悲劇をヒントに作られたとも言われています。

戦後日本では劇作家：菊田一夫氏により「君の名は」としてラジオ放送されました。当時は放送時間には「女風呂」が空になったとのエピソードもあり、後に松竹映画で同映画が「佐田啓二」「岸恵子」の二人で映画化され大ヒット。ヒロインの頭にかぶったスカーフが「マチコ巻き」とし日本の女性の流行にもなり、舞台にもなった「数寄屋橋」はロケ地として観光客がたえなかったそうです。

★ あらすじ

第一次大戦中のロンドン。イギリス将校のロイ・クローニン大尉(ロバート・テイラー)とバレエの踊り子マイラ・レスター(ヴィヴィアン・リー)はウォータール橋でめぐり会う。翌日は結婚の約束をするほどにこの恋は燃え上るのですが、ロイは急に召集で戦地に召集されてしまう。ロイの帰国を待つマイラだったが、偶然目にした新聞にはロイの戦死の報が…。バレエ団を解雇されたマイラと友人のキティ(ヴァージニア・フィールド)は生活の苦しさでロイを失った絶望感から娼婦に身を落とし、その日暮らしを余儀なくされていた。そしてある日、いつものように客を探しに駅に向いたマイラの前に死んだはずのロイが復員し駅にあらわれる。偶然の再会を喜ぶロイだがマイラの心は戸惑いと心の葛藤を隠せない。しかしロイの説得で二人は結婚することになり、故郷のスコットランドへと向かうのだった。マイラは本当の事を隠してロイと結婚できるのか。ロイの母親の前でマイラは…。(上映時間108分)

★ この映画「哀愁」が製作された頃

時代：1940年(昭和15年)は日本が満州事変から太平洋戦争へと戦火の拡大が激しさをます頃でした。ヨーロッパ戦線も雲行きが怪しい時代だったけれどアメリカではまだ戦争というものに市民は恐れを感じていなかった時代でした。

映画：この頃に作られた作品

「ジェーン・エア」(1942)、「カサブランカ」(1942)、「わが谷は緑なりき」(1941)、「市民ケーン」(1941)「或る夜の出来事」(1934)、「風と共に去りぬ」(1939)、「奥様は魔女」(1942)、「駅馬車」(1939)などすぐれた作品が作られていましたが日本には戦後、昭和23年以降上映され、当時の若者たちにアメリカ映画の素晴らしさを植え付けました。